



学びと社会をつなげる
人生100年時代の
キャリア教育



キャリア教育の推進

Promoting career education

～未来を切り拓く力のために～

令和2年8月 北海道教育庁学校教育局高校教育課

インターンシップについて

北海道教育委員会では、令和2年6月、これまでの「高校生インターンシップ推進事業実施要項」を改正し、各高校に通知しました。

主な改正点としては、学習指導要領の改訂を受けて文言を整理したほか、北海道教育推進計画における目標に沿って、**全ての生徒がインターンシップ等の体験的な学習活動を卒業までに経験すること**としています。



令和元年度 60.7%



令和4年度（目標） 100%



なお、進学希望者が多い普通科等においては、大学・大学院での学習や研究経験を必要とする職業に焦点を当て、大学や裁判所、研究施設等の専門機関における**アカデミック・インターンシップ**を実施するなど、各学校の実態を踏まえて積極的に推進願います。

アカデミック・インターンシップの実践例

北海道大麻高等学校

1学年を対象に、「総合的な探究の時間」のプログラムの1つとして大学訪問を行いました。4大学において合計15の講座を開いていただき、事前学習を行った上で、実際に大学に赴き、連携学習を行いました。

参加した生徒は、1つの解答を求める学習ではなく、自分で課題を発見し、その解決策を多角的に求めていく大学での学習に大きな刺激を受けました。また、事後学習では成果発表会を行い、各グループが創意工夫をこらした発表を行いました。



大学訪問での様々な体験の様子

成果発表会

北海道旭川永嶺高等学校

希望者を対象に、旭川医科大学（看護学科）、北海道教育大学旭川校、旭川大学（栄養系・幼児教育系）での連携学習を行いました。参加した生徒は、大学での演習や模擬講義などを通して、職業に対する理解を深めるとともに、進路実現への意欲を高めました。参加した生徒からは、「今回の連携学習の経験が、進学や就職の目的を改めて考えるきっかけになった」といった感想が見られました。また、OB・OGとの懇談や学食体験を通して、大学生活への理解も深めました。



大学訪問での模擬講義の様子

ワークショップ

OGとの懇談

就職活動を見据えたインターンシップの実践例

北海道根室高等学校

2学年を対象に、普通科の生徒は2日間、商業科及び事務情報科の生徒は3日間の日程でインターンシップを行いました。事前指導として、心構えや身上書の作成などを行い、事後指導では報告書を作成し、後日、成果発表会を行いました。

参加した生徒からは、「仕事の大変さや難しさを知ったが、将来のために役立つこともあり、体験できて本当に良かった。今後、この体験を糧に生活していきたい」といった感想が見られるなど、キャリア発達を促す大きな機会となりました。



食品の梱包作業



洗車作業



子どもとの交流



ベッドメイキング

北海道富良野緑峰高等学校

2学年を対象に、3日間の日程でインターンシップを行いました。事前学習として、履歴書の作成や企業研究を行い、前日には出発式を行いました。事後学習では報告書を作成するなどし、後日、成果発表会を行いました。参加した生徒からは、「将来は情報系の仕事に就きたいと思っていたが、今回の体験により電力会社への見方も変わり、進学だけでなく、就職のことについても、もっと調べようと思った」といった感想が見られるなど、自分の進路について考える大きなきっかけとなりました。



玉葱の収穫



伝票入力



高所作業車の体験



成果発表会

高校生の小学校におけるインターンシップ実践例

北海道教育委員会の主催により、令和2年1月から2月にかけて、釧路管内の高校生30名が管内4つの小学校におけるインターンシップに参加しました。令和3年度からは実施管内を拡充し、本格実施する予定です。

○ 目的

高校生が小学校でのインターンシップを通して、教員の職務、学校教育の内容、子どもと触れ合う楽しさなどについて理解を深め、教職に魅力を感じ、教員になろうとする意志をもって教員養成大学を志望することができるようにする。

○ 主な活動内容

- ・ 授業（参観、補助、体験）
- ・ 子どもとの交流（給食・休み時間、児童会活動の参観）
- ・ 教員との交流（若手教員との座談会、学級担当事務の体験）



インターンシップに関する Q & A

Q

インターンシップの教育的意義を教えてください。

A

社会人・職業人として自立していくためには、生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるキャリア教育を充実することが重要であり、その一環として高等学校でのインターンシップ等を通じた体系的な指導を推進しています。

Q

インターンシップ等の体験的な学習効果を高めるためには、どのような点に配慮する必要がありますか。

A

学習のねらいを明確にすることが重要です。主なねらいとしては、

- 勤労の尊さや創造することの喜びの体得に資する
- 望ましい勤労観や職業観の育成に資する
- 自分の能力・適性の判断や高等学校卒業後の進路の選択に資する
- 職業生活、社会生活に必要な知識・技術の習得及び創造的な能力や態度の育成に資する

などが挙げられます。

Q

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の実施は難しい状況ですが、どのように対応すればよいですか？

A

今年度については、授業時数の確保を優先する必要があることや、感染のリスクを軽減することが難しい状況もあるため、可能な範囲での実施で構いません。また、1、2年生については、来年度以降の実施に向けて、計画を変更していただいで構いません。

バックナンバーの紹介

毎年、北海道教育委員会より発行している「キャリア教育の推進」リーフレットについて、過去5年のバックナンバーを紹介します。学校におけるキャリア教育の推進に当たって、参考にしてください。

【発行年度と主な内容】

- 令和元年度 キャリア・パスポート特集
- 平成30年度 新しい高等学校学習指導要領でのキャリア教育
- 平成29年度 卒業生が思うキャリア教育～卒業後に振り返って～
- 平成28年度 インターンシップにおける事前・事後学習の取組と成果
- 平成27年度 キャリア教育を一步進めるための体系的・系統的な計画と取組



令和元年度版



平成30年度版



平成29年度版



平成28年度版



平成27年度版

リーフレットに関する問合せ先

北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係
〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目 Tel. 011(231)4111 (内線35-729)
<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/career.htm>